

# 大崎市子どもの心のケアハウスだより

《第5号》

大崎市教育委員会

## おさんは、自分で考え、判断し、責任をもって行動していますか？

107年ぶりに夏の甲子園制覇を達成した慶應義塾高校野球部。従来の高校野球らしさとは一線を画す方針で部活動に取り組む同校の優勝に注目が集まりました。森林監督が重視したのは「選手の主体性」。野球だけではなく選手たちの将来を見据えた指導が実を結んだ結果となりました。



『**主体性**』は、「**自分で考え、判断し、責任をもって行動できる力**」です。

時代が変わり、少子化や情報化などに加えてコロナ禍を経験し、社会は大きく変化しています。子どもたちが目まぐるしく変化する社会を生き抜くためには、自ら考えて行動することができる『主体性』がとても重要だと言われています。



### 主体性のある子どもの特徴

#### 周りに流されないで行動できる

自分がやりたいと思ったことは、周囲の反応よりも「自分がどうしたいか」が大切であることを理解しているので、意欲的にやり遂げます。

#### 想像力や思考力が高い。

想像力や思考力を発揮して、スムーズに行動するための段取りや行動の先の結果を見通すことができます。様々な項目を順序立てて考え、行動に移すことができます。

#### 友だちと積極的にかかわれる

友だちと協力する喜びやケンカをして悔しい思いをしたりといった経験が多い子どもは、チームワークの大切さを知り、自分のことを振り返ることができます。

#### 積極的にチャレンジできる

何かに挑戦するとき子どもへの支えになるのが、心から信頼できる家族の存在です。親との信頼関係が強いと「失敗したらどうしよう」と不安になることがありません。

### 主体性が乏しい子どもの特徴は？

- ◆些細なことでも親に指示を求めるので、受け身や指示待ちになりがちです。
- ◆自分の言動に自信がもてないので、何をするにも不安な気持ちになりがちです。
- ◆自分の意見を言えず、友だちの言いなりになってしまいます。そのため言葉を交わす機会が少なくなり、コミュニケーションをとることが苦手になりがちです。
- ◆失敗を極度に恐れます。「失敗＝悪いこと」だと思い込み、少しでも失敗の可能性があることは取り組もうとしなかったり、新しい環境に強い抵抗感を感じたりすることがあります。

# 子どもの主体性を育てるためにはどうしたらいいの？

## ① 自分で決めさせる・選ばせる

子どもの「自分で決める力」を育てるためには、「子ども自身が自分で考えて、自分で物事を決める経験」を重ねることが必要です。幼いころから小さな自己決定を重ねていけば、ゆくゆくは大きな自己決定も可能になります。

いきなり「全部、自分で決めなさい」は難しいので、選択肢を与えて「どっちがいい？」と子ども自身に決めさせることから始めてみるのもいいかもしれません。食事のメニューやその日着る服、遊びなど簡単な選択を積み重ねていくことで、子どもはやがて自分の意見を言うことに慣れ、自分で考えて決断し、行動することができるようになります。



また、子どもが自分で決めたことを大事にすると言っても、ある程度の枠は必要です。定められた枠の中で子どもが少しでも自分で決めたり、選んだりできる機会を保障してあげましょう。

## ② 干渉し過ぎず見守る姿勢を大切にする

親であれば子どもが大切なのは当然です。失敗させたくない、傷つけたくない…。大切だからこそ先回りして子どもに対してお膳立てしてあげたくなる気持ちはよく分かります。しかし、あれこれ口を出し過ぎてしまうと、「何でもしてもらえるのが当たり前」「言われた通りにすればいい」と、自分で考えるのをやめたり、「うまくいかないのは〇〇のせい」と人のせいにしたりします。過度な干渉は避けて、見守る姿勢を大切にしましょう。親の過干渉は子どもの主体性を損ねてしまいます。



## ③ 失敗は決して「悪いことではない」と教える

失敗したことを怒るのではなく、むしろチャレンジしたことを褒めることで、子どもは「失敗は悪いことじゃないんだ」と認識します。時には親の思いとは違った行動をとるかもしれませんが、自分で考えて行動する子どもを大らかに見守る寛容な姿勢が大切です。困っている時には手助けをしてあげましょう。

一番大切なことは、子どもが主体性をもってやり遂げた時に「自分で決めて楽しい」と思える経験をさせることです。



子どもの『主体性』は親という存在が大きく影響します。主体性を身に付けさせたいのであれば、安易に怒るのではなく、むしろ積極的な姿勢を褒めてあげてください。

子育ての最終目標は「子どもが上手に人の手を借りながら、自分で世の中を歩いていくことができる力をつけること」です。親は『いつかこの子は自分のもとを離れていくんだ』ということを実感することが子育てであり、『どのように手を離していくか』が重要なのではないのでしょうか。